

A・L・ハウの幼児教育思想とキリスト教主義

橋 川 喜美代

(キーワード：A・L・ハウ、キリスト教主義、頌栄幼稚園)

はじめに

1880(明治13)年4月1日、桜井女学校は附属幼稚園を開設した。これがわが国初のキリスト教主義幼稚園であり、1884(明治17)年9月に発足した幼稚保育科が、わが国初のキリスト教主義による保姆養成所であった¹⁾。

こうしたキリスト主義幼稚園は、明治30年頃には、30園を数えるまでになった。その中で関西圏の私立幼稚園に凛然とその影響力を示したのが、頌栄幼稚園及び頌栄保姆伝習所(現頌栄短期大学)である。指導者アニー・L・ハウ(Howe, Annie L.)は、1887(明治20)年、アメリカン・ボードの教育宣教師として来日した。優れた保姆養成こそ急務だと痛感するハウは、幼稚園開園の89(明治22)年11月4日に先立ち、保姆伝習所を10月22日に開校した。この保姆伝習所は桜井女学校幼稚保育科に次ぐキリスト教主義養成機関であり、修業年限2ヵ年の本格的な養成課程を目指すものであった。1893(明治26)年、2年課程の上にさらに2年の高等科課程を開設したが、応募者は続かず、わずか4名の卒業生を世に送ったに止まった²⁾。

ハウがこのように質の高い保姆養成を目指したのは理由がある。「幼稚園の事業は、他に高等の職業を営むこと能はざる婦女子の取るべき適當なる職業なり、宜しく之を彼等に一任すべし。教育家とも謂はるゝ者が自から手を下して取るに足らざるものなり。他の教育事業と同一視すべきものに非ず³⁾」という幼稚園及び女性蔑視を一掃させ、幼稚園の独立した価値を認識させるためであった。

バンデウォーカー(Vanderwalker, Nina C.)は『ライフ・アンド・ライト』誌の記者の記事を引用しながら、「神戸で最も魅力的な場所は、ハウ女史が大切に育ててきた素晴らしい小さな幼稚園である。多くの観光客が、イギリスやアメリカを発つ前に、この幼稚園を見学することを薦められてやってくる。たとえそうでなかったとしても、神戸に住む人の誰かが『幼稚園を見ましたか？まだでしたら行ってごらん下さい。』と教えてくれる」と、ハウの業績をアメリカにおいて高く評価している⁴⁾。

これに対しわが国の場合、キリスト教保育史上における業績は評価されているものの、一般保育史上での評価は低い。例えば、倉橋・新庄らによる『日本幼稚園史』では、「頌栄保姆傳習所(神戸區中山手通)は、創設明治二十二年十月で、當時神戸組合教會婦人會々員が幼児教育の必要を感じて、幼稚園建設を志した。この事を聞いて北米シカゴから、エー・エル・ハウ女史が来任されて、始めて幼稚園と傳習所を經營するに至つた」とわずかに設立の経緯が述べられているに過ぎない⁵⁾。また、東基吉は「幼稚園に従事せる婦人の一況保守的傾向を代表する好個の一例⁶⁾」と、ハウを酷評している。

国家主義的風潮の中で、ハウの実践は迫害されたり、保守的傾向として退けられながらも、キリスト教に基づくフレーベル主義保育の体系化と高度な教養を身につけた保姆養成を一貫して守り通した。その一途な思いは、次の主張に込められている⁷⁾。

「抑も幼稚園の目的とする所は、小児の心中に隠れ居る諸々の能力を抜き出し、之を發育して完全の點に達せしむるにありて存す。實に切要の職務と云ふべし。今やその價値は漸く世人に知られ来れり。また是より愈々多く知らるゝに至らん。姉妹等よ此事業は實に君等が全力を之に致すの價値を有するものなり。最も多望にして亦た最も必要なる事業なり。」

ハウは、1891(明治24)年、当時としては珍しい花壇を庭に造り、幼児の特性である生き物への強い好奇心を發揮させ、自然界に溢れている神の栄光と愛を生き生きと感じ取らせることによって、「生命の充溢」(Fullness of Life)へと導こうとした。ハウによれば、「生命の充溢」とは「行動の、喜びの、そしてひろがってゆく魂の、生命の、そのいっぱい満ちている」状態であった⁸⁾。

本稿は、ハウが頌栄幼稚園のプリンシプルとして標榜し実現を目指した「生命の充溢」な幼稚園の実態を解き明かすことを目的とする。

I. キリスト教主義幼稚園を取り巻く社会状況

1899(昭和32)年、文部省は「幼稚園保育及設備規程」を制定し、全国的に幼稚園を推進する一方、キリス

ト教系小学校に義務教育を否定する「私立学校令」を公布し、宗教的な教育や儀式の廃止を迫った。治外法権の撤廃によって頌栄のように外国人に経営の一部を依存する学校においても、その適用は免れず、ハウを不安に陥れたが、幼稚園も保姆伝習所も、閉園・閉校の難を逃れた⁹⁾。

こうした国家統制期の中で、翻弄されるハウや保姆たちの動向を見ておこう。

1. ハウ来朝の経緯

アメリカでは19世紀初頭から、外国伝道への機運が高まった。1810年6月、マサチューセッツ州ニュー・イングランドの教会会議で外国伝道を支援する団体、アメリカン・ボード (American Board of Commissioners for Foreign Missions) が結成された。この団体は既成の教会とは異なり、教職と信徒の別なく、すべて海外伝道への熱情を共有する者の自発的参加を求める運動体であった¹⁰⁾。

アメリカン・ボードの日本への宣教師派遣は1869 (明治2) 年に決まり、1870年にグリーン (Greene, D. C.) 夫妻、1871年にはディヴィス (Davis, J. D.) が神戸に到着した。

1872 (明治5) 年、グリーンの下、数人の青年有志が聖書を研究し英語修得のため、神戸の宇治野村に英語学校を開設した。グリーンは午前中に英語の授業を、午後には旧約聖書を講じ、日曜日にはバイブル・クラスが開かれた。宣教師と求道の青年たちは学校に隣接する元町5丁目に民家を借り、日曜日毎に聖書の講義を行い、宣教師たちは説教を開始した。1874 (明治7) 年、グリーンより松山高吉、前田泰一、鈴木清、小野俊二、佐治職、太田源三、北村元広、市川まつ、甲賀ふじ、小山りき、太田とらの11名が受洗し、教会を「摂津第一公会 (神戸教会)」と称した¹¹⁾。

1886 (明治19) 年、神戸でキリスト教の伝道を開始していた神戸教会、神戸多聞教会に属する婦人たちの有志が組織していた婦人会は、キリスト教幼稚園の設立を実現させようと活動を始めた。幼稚園の数が増えたとはいえ、当時、神戸では僅かに3園 (明治19年-1園、明治20年-2園) の私立幼稚園があったに過ぎなかった。神戸婦人会はこうした中、幼稚園の必要性を認識し、財界等の援助によらず、ボードの基本方針である独立・自給の幼稚園設立を企画した。各自3銭を醸出して布きれを一括購入し、京都で買い求めた雛人形に衣服を作り、ボード宣教師がアメリカで販売。資金はこの売上金と神戸教会有志の寄付などによって捻出したが、指導者を得ることはできなかった。

この頃、アメリカに一時帰国したディヴィスがシカゴ郊外のオーク・パークで開かれた婦人伝道会で日本伝道

のための講演を行い、神戸の教会が幼稚園開設のために指導者を求めていることを訴えた。この切実な訴えに応じたのが、音楽と保育の専門教育を修了し、シカゴの白園で9年間にわたり園長を務めていたハウである。

ハウはマサチューセッツ州ボストン市郊外ブルックラインの敬虔なピューリタン家庭に生まれた¹²⁾。父親は典型的なフロンティアで、彼女が4歳の時、ブルックラインを出て、イリノイ州シカゴ郊外のクリフトンの広大な土地を開拓し、農園経営を手がけた。一家はベタニア・ユニオン教会に属し、父は日曜学校長、母はオーガニストを務めていた。1867 (明治元) 年に、ロックフォード女子セミナリーに入学したハウは、音楽を専攻した。ディアポーン女子セミナリーでさらに音楽の研修に励んだ後、パットナム (Putnam, Alice H.) のシカゴ・フレーベル協会の幼稚園教員養成校に入学した。1878 (明治11) 年、この養成校を卒業し、シカゴにおいて幼稚園を開設。1887 (明治20) 年12月21日、そのすべてを捨て去り、アメリカン・ボードの婦人宣教師として来朝した。

横浜港に着いたハウは、アメリカン・ボードの職員の歓待を受け、富士山の壮大な眺めに、「心暖かな歓迎と美しい景色」を満喫したと言う¹³⁾。ハウはクリスマス・イブには神戸に到着し、翌日曜日のクリスマスには、3つの組合教会 (神戸教会、多聞教会、兵庫教会) のために開かれた聖餐式に参列した。1888 (明治21) 年1月にはハウの日本語教師兼通訳として、杉浦信が2児を伴い高知より来神¹⁴⁾。2月初めから、ハウは片仮名・平仮名に加え、言葉や文を少しずつ覚え、文法も習い始めた。教会の婦人たちの協力で、頌栄幼稚園の新園舎は1889 (明治22) 年10月に落成した。保育を始めるに当たり、ハウは、保姆伝習所の開所を急いだ。第1回入学生12名のうち、杉浦信と和久山きそはその履歴を生かし、11月2日付けで保姆職員に任命された¹⁵⁾。

2. 保育会の結成とハウの活躍

東京女子師範学校附属幼稚園の開設以来10年を経た幼稚園は、全国で38園を数えるようになっていたが、20年代の10年間には、185園が開設されるまでに発展を遂げる。こうした幼稚園の増加は、保姆の増大を意味し、1886 (明治19) 年には全国で83名に過ぎなかったが、10年後には526名に膨れ上がっている。各地の保育会の結成は、表1に示すように、増大する保姆の組織的な研修活動の高まりと共に、大都市を中心に進められていく¹⁶⁾。

わが国における明治20年代の幼稚園は、女子高等師範学校附属幼稚園主事の中村五六や、東基吉らの研究を通して、「たんに外国を模倣し、フレーベリアン・ドクトリンを無批判に受け入れることから一歩進んで、過去十数年におよぶ実際の幼稚園の経験や、あるいは国家主義的

表1 保育会結成の動向

1889 (明治 22)	京都市保育会発足
1891 (明治 24)	東京女子高等師範学校附属幼稚園内に 保母会発足
1894 (明治 27)	大阪市東区保育法研究会結成
1896 (明治 29)	フレーベル会創設
1897 (明治 30)	大阪市保育会創設 神戸保母会発足 三市聯合保育会創設

(大戸美也子「J.K.U. 年次報告書の背景と今日的意義」
『Annual Report of the Japan Kindergarten Union』第7巻、
1985年、日本らいぶらり、377頁参照)

な考えかたから、保育方法の反省が行なわれはじめた¹⁷⁾と称せられる時期を迎えていた。

京都市保育会や大阪市保育会は結成直後から、ハウ指導のもとに研究活動を展開していた。京都市保育会沿革概要によれば、1890 (明治 23) 年、「男子會員二名神戸に赴きハウ氏の幼稚園を視察」。91 (明治 24) 年 8 月には、「有名なるハウ氏に請ひ恩物使用法の講義を聞くこと約一週餘、會員八十名會場は竹間幼稚園なりき」と記しており、ハウが1週間をかけて恩物使用法を80名の會員に講じた様子が記されている¹⁸⁾。

また、大阪市東区保育法研究会はハウの講演に會員全員が揃ったのを機会に、有志たちが大阪市保育会設立の計画を計ったという¹⁹⁾。ハウ講演の経緯は次の様であった。「明治三十年七月二十日、東區保育法研究會ヲ全區汎愛幼稚園ニ開クニ當リ、神戸市頌榮幼稚園主幹エー、エル、ハウ嬢米國幼稚園事業ヲ視察シテ近頃歸ラレタル由ヲ聞キ一場ノ講演ヲ請ヒタルニ、嬢ハ快ク之レヲ諾サレタレハ、全會ハ好意上之レヲ他三區ノ保育関係者ニ報シ共ニ之レヲ聴カンコトト為シニ、全市ノ保母及ヒ園長殆ント皆來會セラレタリ」。

そして1894 (明治 30) 年 10 月 9 日には、^{はしうど} 間人幼稚園を除く4園が集まり「神戸保母会」を結成した。当時、神戸市内には5つの幼稚園があった。私立間人幼稚園、私立から公立に移管された兵庫幼稚園と神戸幼稚園、さらに宣教師トムソンによって創設された善隣幼稚園と頌榮幼稚園の5園である。保母会会長には和久山きそが、指導者にはハウが就任。會員数10名で、月1回研究会を各園持ち回りで第2土曜日午後で開催することとした。

こうした保育会発足の動向は、わが国の幼稚園発展を示す証拠である。しかしその一方で、日清戦争以降の国家主義政策は反キリスト教ムードを醸し出し、「恩物」への反発を拡大させていく。

3. 三市聯合保育会の発足と恩物の取捨選択問題

ハウは1895 (明治 28) 年 7 月、伝習所第3期生と、高等科第1期生を送り出した後、休暇で一時帰国し、1897 (昭和 30) 年 6 月に頌榮に戻ってきた。同年、京

都市保育会が中心となって、三市の聯合保育会を結成しようとする動きが起こった。10月16日、大阪市保育会が大阪西区の東江幼稚園において開催されるに際し、三市聯合保育会創立を協議した²⁰⁾。

ハウは、三市聯合保育会発足への和久山の動きを心配しながら見守っていた²¹⁾。

「和久山は、京都、大阪、神戸の幼稚園の先生たちの幼稚園協会 (京阪神連合保育会) を組織するために、先生方を煽動していました。大阪の幼稚園の先生の盛大な集まりが催されることになっていて、そこでこの会合も同時に計画されました。

・ ・ ・ ・ ・

私は、和久山さんがこういったキリスト教徒でない先生たちにどんどん認められていくのを、少々固唾を呑んで見えています。私は彼女を引き戻そうとは思いません。彼女の影響力は、公立学校の仕事のなかで強くなっていくことと思います。彼女がその知恵と信仰とを見失ってしまいはしないかと、少々気をもんでいます。和久山さんがそうなるとは思いません。」(傍点：引用者)

和久山はハウが思っていたように、その知恵と信仰を見失うことはなかった。ハウにその思いを確信させたのが、第1回三市聯合保育会での「恩物の取捨選択」問題に対する和久山の答弁であり、第3回三市聯合保育会を頌榮幼稚園で開催するに際し、開会は祈禱をもって始めるという断固とした態度を貫いたことにあった。

「恩物の取捨選択」問題から見ておこう。京都市保育会からこの問題が提出された真意は、20恩物すべてをフレーベルの創意に準拠して実施する必要があるのかという問いかけであった。大阪市保育会からは、粘土細工、刺紙の廃止、京都市からは刺紙、縫取、連板、組板、組紙、剪紙の未使用などの意見が噴出した。これに対し、和久山は「粘土細工 (冬季は除く) は幼児の最も喜ぶもの故に之を廃するを憾む²²⁾」と述べる一方、取捨選択を求める態度には次のように答えている。

「二十恩物は統一上より組立てられたるものなれば之を取捨するが如きことあるべからず。然れども今日迄の経験上、未最興味ある良方法を案出せざれば、刺紙と組紙との二種は見合せ居れり。即使用せざるに非ず、更に良方法を得たれば之を行はんと欲するのみ。唯南京玉の代として六色の木の玉を用ひしめ居れり²³⁾」

「幼稚園に於ける秩序之必要」という中で、和久山は「保育者は天然界の大眞理を能く察知致し、其法則の如何に秩序正しくあるかを了解いたさねばなりません。フレーベル氏は此理を研究し天然界を簡単に縮め、其標準として彼恩物手芸を編出されたるものなれば、彼恩物手芸には實に深き原理を含み居るものであります²⁴⁾」と述べ、恩物＝自然界の理法修得の手段と解するフレーベル主義者の立場を貫いた。

次に、和久山がキリスト教主義に立つ者であることを明示したのは、1898（明治31）年11月12日、神戸保母会が三市聯合保育会開催を引き受けた時であった。会長である和久山は、開催に当たり、「當頌榮幼稚園はキリスト教と密接の関係を以て居ります。故何會によらず先づ祈禱を以て開會致すを例と致し居ります²⁵⁾」と述べ、祈禱をもって開會に臨んだ。和久山が目指したのは、①女性の主催・企画による実行、②禁煙、③開催は土曜日の1日のみとすること、④お祈りをもって開會すること、の4点であり、当時の会運営から考えて画期的なことであった²⁶⁾。

神戸保母会は、先に触れたように、2つのキリスト教系幼稚園と2つの公立幼稚園から構成されており、ハウらはキリスト教主義幼稚園ではお祈りで開會し、他の幼稚園に出かける時はキリスト教的な習慣を省くことに決めていた。この取り決めに加え、和久山は安息日である日曜の開催を取り止め、土曜日1日とした。こうしたキリスト教的習慣の強調もさることながら、和久山は女性主体の会運営を実行しようとしたのである。神戸保母会を男子禁制にした和久山にとって、男性が会のすべてを取り仕切り、タバコの煙がつきもの大阪や京都保育会のやり方に迎合することは我慢できなかったのである。

和久山は生徒たちを前に祈禱した際、その時を振り返って、「箴言（旧約聖書：引用者）で説かれている善悪の選択の自由を経験することで、近頃自分がどれほど深い感銘を受けたか、そしてそれは自分の心の内の苦しい戦いであったけれど、正しいと考えたのでその道を選択したのだと、そして今や、神の祝福がその日1日降り注いでいた²⁷⁾」と証している。

しかし、こうしたハウらの勝利は続かなかった。1901（明治34）年5月11日、神戸幼稚園において、第34回神戸保母会が開かれた時、ハウらは「1902年（明治35）頌榮幼稚園で第九回聯合保育会を開催するさい、開會の初めに礼拝を行い、また日曜に大会は開かない」という提案を申し入れたが、大阪、京都保育会はこれに反対した。そこで、神戸保母会は即刻、聯合保育会を脱退した²⁸⁾。神戸保母会はその後も毎月集会を続けたが、宗教上の問題が大きく引っかかり、1902（明治35）年には解散を余儀なくされた。しかし同年11月、神戸、兵庫幼稚園を中心に新たに神戸保育会が結成され、聯合保育会に加盟した。

4. 日本幼稚園連盟の結成

1903（明治36）年、ハウは母校シカゴ・フレイベル協会の幼稚園教員養成校副校長の任に乞われ、再び帰らぬ決意で帰来している。帰国したハウが目当たりしたのは、国際幼稚園連盟（International Kindergarten Union, 以下IKUと略す）に結成された19人委員会を舞台に繰

り広げられるブロー（Blow, S. E.）を擁するフレイベル主義保守派と、ヒル（Hill, P. S.）を擁する進歩派の激しい論争であった。1890年代から明確化しつつあった新旧間に生じたフレイベル主義解釈のずれは、狭まるどころかむしろ広がりが増していた。

論争の激しさが増す1906（明治39）年3月、ハウは再び来日し、頌榮保母伝習所に戻った。自らの離任によって生じた伝習所の窮状と帰任を求める保母の願いに動かされたからである。そして同年8月、ハウは日本幼稚園連盟（Japan Kindergarten Union, 以下JKUと略す）の結成を呼びかけた。

JKUはハウを議長に、召集に応じた婦人宣教師19名が結成を決議したキリスト教主義幼稚園関係者の保母団体である。結成の目的は、孤立していた婦人宣教師による幼稚園が使命達成のために一致協力を図ることにあった。1907（明治40）年8月の第1回年次総会開催に先立ち、JKUはIKUの名誉支部であることを同年5月3日の理事会で認められた。JKUの規約第3条に記されたIKUとの関係は、幼稚園教育の向上をわが国に留めず、諸外国の実情を視野に入れて検討していこうとする連盟の積極的な姿勢を明確にしている²⁹⁾。

グローバルな立場から、キリスト教主義幼稚園教師が結束するために、1908（明治41）年、会長ハウは「私たちのなすべき仕事」と題した挨拶において、その姿勢を明らかにした。JKUは神の導きによる新しい使命の証であり、その使命を全うするには、12に及ぶ宗派上の違いや、東洋と西洋の違いさえも乗り越えて果たすべき仕事がある。ハウはそれを次の5項目にまとめた³⁰⁾。

- ① 私たちキリスト教主義の幼稚園や保母養成所に関心をもつこと
- ② 少なくとも互いに面識をもつこと
- ③ 日本の仲間や、その人たちの仕事を知ること
- ④ 可能な限り日本の一般教育制度に十分な知識を得ること
- ⑤ 海外の幼稚園事情の研究

各項目を説明する前に、ハウが求めた幼稚園教師の専門性を明らかにしておこう。ハウは、「幼稚園教師は、自然界と人間社会、全宇宙から引き出される未知なる分野から、子どもが将来の準備をするのに最も相応しいものだけを選び出すことができる類い稀な存在でなければならない。それには知識も、知恵も、経験も必要³¹⁾」だ、と考えていた。

このように考えるハウは、JKUの会員達に日本人指導者を越える知識、知恵、経験を求めていた。

①から順に見ておこう³²⁾。50人の園児数からなるキリスト教主義幼稚園を例にとるなら、ハウは子どもの顔をきちんと見分け、その幼な心を一人ひとり理解して、その性格を導くと共に、各家庭を訪問し、母親たちと友情

を保つことを求める。子ども理解や家庭との連携は日本人指導者にとってさき難しい課題であり、当時から、高い見識が求められていた。記録の保管、出席簿や帳簿つけ、教師や事務員の手助け、部屋を清潔に保ち、環境を整えること。のみならず、毎月の予定に従って自然教材や歌、お話、絵などの教材を決めること。

また、保母養成所併設の園では、財政基盤を整え、他の高等教育研究機関が果たすべき要求をすべて充足させる一方、機械的な効率性を求めたり、人と張り合うことを戒め、施設の精神こそ遵守せよと言う。

②について、ハウは「隣人たちがどのように花の世話をしているのか、どのようにブドウの蔓を巻かせているのかを理解するには、隣人の庭を柵ごしに眺めたり、広いビジョンに時間を割かなければならない³³⁾」。そのために、JKUは日本にある20の外国人が関連しているキリスト教主義幼稚園が互いに面識を持ち、励まし合う役割を担うべきだと指摘している。

③の外国人指導者が持っている日本人保母への不信、恐れ、嫌悪感を解消するには、その才能に敬意を払い、互いに助け合う以外には方法はない。敬意を払う一例として、ハウは二葉幼稚園の設立者野口幽香をあげている。そして、海外で指導された日本人保母たちが、外国の実状に敏感で、連盟を組織したり、広報活動を行っているのに関心を払うべきだと述べている³⁴⁾。

④は、ハウが幼稚園教育の専門家とはどのようなものと考えていたのかを知る上で参考になる。ハウは言う。「幼稚園は非常に短い教育の一部にすぎない。私たちは幼稚園以前同様、幼稚園以降を見渡すことができ初めて、この道のエキスパートだという肩書きを持てる。つまり、日本の教育制度全てを視野に入れることができのみ、私たちは教育に携わる者に必要な広い視野を持つことができる」のだと³⁵⁾。それゆえ、ハウは学校の教師たちと交流したり、会合を重ね、出版物にも目を通すべきだと考えていた。

⑤では、日本の幼稚園で働く者として、アメリカの同朋が注目する9つの事項、a. 試験、b. 海外通信、c. 幼稚園という概念、d. 教材、e. 指導計画、f. 物語、g. 遊戯、h. 美術、i. 自然学習、に留意せよと言う。5年に一度は1年間の休暇をとり、アメリカやイギリス、ヨーロッパの国々の教育状況を調査したり、大学などで哲学、心理学、文学、社会学、教育史などを学び、自己研鑽に努めること。特にハウは試験において、品性とか魅力、熱意、親切心といった人柄、真の女性性などが軽視され、子どもを正しい生き方に導くのに不可欠な知識が問われていないことに不満であった³⁶⁾。

伝道と教育を統一的に捉えるハウは、「幼子をキリスト者へ」導くことこそが本当の意味での教育だと考えていた。国家主義的様相を深めていくわが国の状況下にあっ

て、ハウはその結束を国内はもとより、国外の幼稚園に求めた。JKU結成は、伝道と教育の統一実践を貫く上で欠くことのできない組織母胎であった。

II. 頌栄保母伝習所及び附属幼稚園の経営

頌栄保母伝習所は1889(明治22)年10月22日から開所した。しかし、材料や設備はおろか、幼稚園で使う歌さえなかった。そこで、ハウは50曲ほどの歌を翻訳して準備を整えた。開所当初、入学した12名の生徒たちは、ハウの保育学、恩物の縫取りや織紙、佐野の生理学、阿部の教育史と教育理論、ダドレーの聖書、歌のレッスン、オルガンの練習を受けていた。すべて通訳つきのハウの講義は、ハウや生徒たちをかなり苦しめたという³⁷⁾。

ハウの卓越した業績は、2つある。1つには、彼女の文筆活動である。1892(明治25)年の『幼稚園唱歌』に始まる夥しい保育文献が執筆あるいは翻訳・出版されたことにある³⁸⁾。2つ目は、ハウが体系化した理科教育によって、フレーベル主義保守派のブローが推進した象徴主義に陥ることなく、「生命の充溢」した子ども・保母の育成を求めた点にある。

まず、ハウの『母の遊戯及育児歌』とブローの英訳本を比較分析しながら、「生命の充溢」した人間の核ともいべき自然、人間、神との関係を探ることとする。

1. 『母の遊戯及育児歌』の出版

ハウが1897(明治30)年に出版した『母の遊戯及育児歌』は、フレーベルの『母の歌と愛撫の歌』(Mutter-Spiel und Koselieder)の翻訳である。本書はフレーベルの最高傑作と言われ、アメリカやイギリスなどで、英訳が進められていた³⁹⁾。

『母の遊戯及育児歌』の内容は、上下巻の2部構成に分けられている。上巻は子どもに対する母の感情を示した「序歌」7篇と、「遊戯の歌」49篇、「結びの歌」1篇から構成され、それぞれに挿絵が添えられていた。また下巻では、上巻の遊戯と歌、挿絵に込められた教育的意義の解説がなされている。

ハウは序文の中で、ブローの英訳が進んでいるのを知らずに日本訳を手がけたことを説明する一方、絵画は日本の風俗、習慣に合わせて翻案したが、原書をできるだけ精確に翻訳したと次のように述べている⁴⁰⁾。

「この書を日本語に譯するに當たって、私は原書の遊戯と説明とに含蓄されて居る思想を、出来るだけ精確に描き出すことにつとめました。絵畫だけは日本の風俗・習慣に適合するように、その形態を變化しました。併し原書の絵畫に含まれて居る意義は、少しも失はれず、そのまゝ日本風の絵畫の中に含ませておきました。」

ハウが原書の詩歌を忠実に翻訳したのは、「母親の心に

訴え、遊びの教育的意味を自覚させる手引き書として⁴¹⁾ 役立てるためであった。

ブローは英訳に当たり、原書の歌や楽譜を翻案したことを明らかにしている⁴²⁾。編者ハリス (Harris, W. T.) は、2巻からなる英訳本を説明し、手引きと注釈からなる第1巻を母の書、歌と音楽からなる第2巻を子どもの書と命名し、原書よりもサイズが小さくなった絵画を2,3の部分に分けて拡大した点を明らかにしている⁴³⁾。そして、「子どもたちがそうしたイラストに見られる特徴のすべてを発見したり、画家の目的をつき止めるに従って、絵画部分の拡大はすべての幼稚園教師に感謝されるだろう。」と述べている⁴⁴⁾。

ハウの「菓子揉」とブローの「お菓子づくり」を比較しながら、両者の解釈の違いを明らかにしておこう。

「菓子揉」⁴⁵⁾

をさなごの
自ら作りて 仕上げたる
ひらたき菓子は ここにあり
いとなめらかに 出来にけり
菓子やく人は 云ひけらく
「小さき菓子を 待ち来れ
かまのひえざる そのさきに
いざその小菓子 焼きて見ん」
「菓子やきどのよ 此菓子を
我子にやきて 給へかし」
かまの小菓子は 忽に
味ひうまく やけにけり
待間あらせぞ 焼けにけり

「お菓子づくり」⁴⁶⁾

坊やしてみましよう、お菓子を焼
きましようね。
たたけ、たたけ、お菓子を平らに
しよう。捏ねて、捏ねて作った大
事なお菓子。
パン屋さん、オーブンは熱くな
っていますか？私のお菓子を焦がさ
ず焼いてくださいね。
すぐにお菓子が焼けるよう、熱く
なったオーブンの奥に入れましよう。
こんがり焼き上げ、ここに運びまし
ょう。坊やが食べる大事なお菓子。



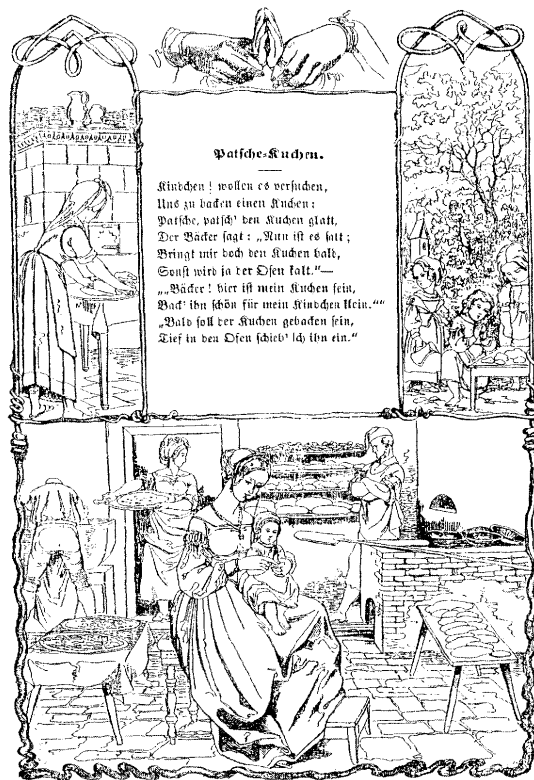
フレーベル著、アンニー・エル・ハウ訳『母の遊戯及育児歌』上巻、頌栄幼稚園、明治30年、33頁。

「菓子揉」の解説⁴⁷⁾

「小児が慈母の手より [パン] 又は其好む菓子を^{こひきや}得て之を食せんには先づ [パン] 焼人の之を焼く^{めん やき}あらざる可ず、さらば [パン] 焼人は母の愛と小児の嗜好とを連続する媒介にして生命聯絡の鏈環なり。然れども是れ唯一無二の鏈環に非ず。又固とより其最後の鏈環に非ず。若し能く機会を把握して巧みに此遊戯を利用せば此生命聯絡の脈をたどりて遂に最後の鏈環に達し萬物に於ける天父の恩恵を小児の心に明確ならしむるを得るなり。何となれば磨者粉を磨かざれば^{めん やき}麵麩焼人其 [パン] を焼くを得ず、農夫、穀物を収穫せざれば磨者其粉を磨くを得ず、地穀物を産せざれば農夫穀物を収穫するを得ず。天然相和合して其生々の化を遂ぐるに非れば地穀物を産するを得ず。神勢力と物質とを備へ一定の経綸以て之を統るに非れば天然相和合して其生々の化を遂ぐるに能はざればなり。」(傍点：引用者)

「お菓子づくり」の解説⁴⁸⁾

「この遊びは幼児の本能的衝動を外部の活動への知識や、それらの相互関係へと導き入れる必要から生まれた。子どもが大好きなパン、あるいは上質のお菓子を母から受け取るためには、パン屋がお菓子を焼いていなければならない。ここまでの、私たちは生活とサービスの鎖を繋ぐ2つの環を見出す。さあ、こうした一つひとつの環が大きな鎖を構成していることに子どもを気づかせよ



Blow, S. E., *The Songs and Music of Friedrich Froebel's Mother Play*, D. Appleton and C., 1897, p.35

う。パン屋は粉屋が粉を挽かなければ、お菓子は焼けない。粉屋は農夫が穀類を運んで来なければ、粉は挽けない。農夫は田畑が穀物を実らせなければ、粉を運ぶことは出来ない。田畑は自然の力が穀物を生産するために調和的に働かないなら、穀物を実らせることはできない。自然の力をその予定された目的に向けて、刺激し、導くような全能で慈愛深い力が働かないなら、自然の力は調和的に働かないだろう。」(傍点：引用者)

この遊びのねらいは、天地自然の和合や活気ある力が、究極的には万物を支配する神の摂理、恩恵によるものであるということ子どもに悟らせることにある。ハウは日本の風俗・習慣に合わせ、パンは和菓子に、オーブンは竈に翻案しながらも、原書の真意である「子供と神の間に敬虔なる関係を確立する事⁵⁰⁾」に成功している。

フレーベル教育学の根本的課題は、「神の愛が總てのものをその目標にまで導かなかつたならば、自然は内的に調和して働くことが出来ない。斯くして母はその子に『總て一個の全體的な調和的關聯をなし、而もその最後の根底をなすのが神である』ことを知らず識らずの間にその子に教へること⁵¹⁾」にある。ブローとは異なり、ハウは体系的な理科教育をもって、神への敬虔な愛と賛美を子どもたちに感得させようとしたのである。

2. 自然界への敬虔な愛と賛美

ハウは、フレーベルが唱えたように、自然は神の顕現であり、神の啓示は自然を通してなされると考えていた。「神様の御手によつて創造せられたこの宇宙は、實に靈妙な實に麗はしいものであります。而してこの世の中には、この美妙なる御働きに對して、少しも敬虔なる愛の眼をむけず、唯無意味に生活し無意味に死去すると云ふ人が實に数限りなくあります。……このかゞやくばかりの美しき自然界に對し、盲人の様な態度をとりはしますまい。この宇宙間の森羅万象が、年々歳々、四季折々に清新なる生命を賦与されて居るこのくしき變化に對し興味をもたずには居られませんまい」と、自然研究を重んじ、子どもたちをできるだけ自然に親しませた⁵²⁾。

幼稚園開設と同時に、園庭に花壇を造ったハウは、「空中を飛んでおる鳥・地上を走っておる獸類・花間を戯れている昆蟲・美しい花・小さな種子・果實も野菜も天も地も山も川も海も池⁵³⁾」など、自然界の事物を教材とした。しかも、「今日は花のお話、明日は石のお話、秋には卵子のお話、冬には雛のお話と云ふ風⁵⁴⁾」に無秩序に提示するのではなく、自然界の事物を、規則正しい連続的發展の順序に従って活用し、宇宙の美と愛とを子どもたちに悟らせようとした。つまり、ハウは収穫の秋、万物就眠の冬、生命の復活の春といったように、四季折々に見られる生命の営みを会集の主題として位置づけ、子ど

もたちに自然を余すことなく観察させた。

表2は、1910(明治43)年9月～1911(明治44)年7月までの主題である⁵⁵⁾。

主題は9月～11月までの自然の営み、12月～2月までのイエスの誕生と天地万物の創造、3月の人間の生き方、4月の復活祭、5～7月までの社会の営み、といった具合に進んでいく。ハウはまず自然を通して、子どもと神との間に敬虔な関係を確立する。そして、イエスの誕生を契機に、天地万物の歴史、人類の社会関係へと子どもたちを誘い、自己の精神生活の根底となる神を認識させ、宗教的信念の萌芽を育てていく。

ハウはそのために、兄エドワードに倣い体系的な理科教育を目指した。やり方は徹底した経験主義である。昆虫では、子どもたちは青虫を捕らえて、蚊帳用の網をかぶせた箱で観察し、蝶になる春を待つ。厚紙やガーゼで作った箱に蚕を飼い、幼虫に餌をやって、その変化を見守った。そして、自分の繭から糸が紡ぎ出されて絹糸にするところを観察したり、羽二重を織ったり、日の丸の旗にした。ハウはこのようにして、子どもたちが「昆虫学」に興味をもつようになることを期待したのである⁵⁶⁾。動物の飼育も同様で、小鳥や鶏を飼い、卵を親鳥に孵化させ、ひなの誕生を観察・研究させた⁵⁷⁾。

ハウが象徴主義に陥らなかったのは、「講義をしたり、

表2 1年間の会集における主題

9月	19～30日：昆虫－冬の準備
10月 農夫の助け	3～7日：種、10～14日：鳥、17～21日：家畜、24～28日：農具
11月 穫	10/31～4日：葉、天長節、7～11日：果物、14～1日：野菜、21～25日：感謝祭、28～12/2日：土地の休み
12月 クリスマス	5～9日：3人の博士、12～16日：キリストの生涯、19～22日：クリスマスを祝う意義
1月 天地創造	9～13日：1日目、2日目の創造 16～20日：3日目の創造(植物) 23～27日：4日目の創造(光) 30～2/3日：5日目の創造(海の生物)
2月 天地創造	6～10日：5日目の創造(動物、鳥) 13～17日：5日目の創造(昆虫) 20～24日：6日目の創造(高等動物) 27～3/3日：6日目の創造(人間)
3月 奉仕	6～10日：服従、13～17日：正義、20～24日：博愛、卒業
4月 進展	10～14日：イースタ・蕾、17～21日：鳥、フレーベルの誕生、24～28日：昆虫
5月 各国の生活	1～5日：日本、8～12日：ドイツ、15～19日：英国、22～26日：アメリカ
6月 労働	5～9日：鍛冶屋、12～16日：車と船、19～23日：電報、電気、26～30日：発明
7月 夏休み	3～7日：海辺、10～14日：山

教授をしたりするものではありません。唯、春・夏・秋・冬それぞれの季節に応じて、私共の眼前に美しく展開されて居るこの自然の賜物——人の心を蕩かす様な自然物を子供に見せるのであります。そうすると子供はそれを見て自分で面白がり、自分で研究する様になります⁵⁷⁾と捉えていた点にある。

幼児の「好奇心を満足させること、これやがて彼等のために豊富なる生涯の基礎を据えること⁵⁸⁾」だと考えていたハウは、子どもたちが種まきから開花・結実に至るまでの過程を観察させたり、金蓮花で沢山の花束を作って、お客や病気の子どもたちに配ったりした。また、豆を植えて籠数杯も収穫したり、朝顔の種を取って、来年の春に蒔く準備をした。こうして苗木を育てたり、青虫を飼育・観察させ、自然を愛でることを通して、それを支え、支配する神に感謝し、神を誉め讃える魂を子どもたちに育み、社会奉仕の道へと誘おうとした。

つまりハウは、保姆が物の根底に横たわる自然の法則を子どもの驚嘆をもって導くよう求めた。それは具体的には、①眠りの状態にある小枝に潜伏した生命が、春には芽や蕾となって吹き出す事実、②縫い針ほどの卵から魚が誕生し、水中を泳ぎ回るという事実、③雌鳥が温めていた卵から雛がかえる事実、が子どもの喜びと興味をもたらし、愛と賛美を育む機会を逸しないことであった⁵⁹⁾。こうした中に、象徴主義が入り込む余地はない。

3. 「生命の充溢」を求めて

頌栄幼稚園のプリンシプルは、「生命の充溢」であった。行動、喜び、広がっていく魂、生命の満ち溢れた子ども・保姆とは、どのようなものであったのだろうか。

和久山の思い出によれば、「子供がころんだ時泣くと『ア、カシコ』『ア、カシコ』と誉めて抱き起します。ハウ先生が其の事を大變きはられ、日本の悪いくせです。自分自身で起らせ決して起してはいけません。自立心を起させる様やかましく申し渡たされました」と語っている⁶⁰⁾。本当に賢いなら、易々かけて泣いたりするはずはない。幼児だからといってご機嫌取りをする大人も、大人の思い通りにされ、真の子どもらしさや喜びを失った子ども像もここで否定される。

また、ハウは子どもを一枚の白紙のように考えることを許さなかった。ある日、インタビューに訪れた大新聞社の記者が白紙説を唱えるのに対し、次のように反対理由を述べている。

「子どもが白紙なら、口答えもしないし、邪魔もしない。また、そこに書かれたことに反対もしない。白紙説にとって残念なのは、子どもは内なるものを持っている。自分の意志を持ち、個性を備えている。……いろいろな種類の秘められた力を持っている。それゆえ、どんな子どもに対しても、一枚の白紙のように好き勝手に書こうとす

ることは止めなければならない⁶¹⁾」と。

ところで、50歳になった頌栄幼稚園の卒業生は「巣立てるものの歓び」と題して、「私の祖父母がクリスチャンで、孫の私共までその感化を受け、そんな関係から私も、私の弟も、妹もみなこちらの御厄介になりました。……頌栄幼稚園には私共の一番尊い、楽しい夢がお預けしてあるわけでありまして、多難な人生航海に於て、いつでもその夢をひき出し、魂を浄化させ、勇気づけてくれます。本当に有り難い『こころのふるさと』⁶²⁾」であると語っている。

こころのふるさとである幼稚園は、①自然界における神の働きに対する敬虔な愛と賛美の念を育み、②世界の人類は、互いに助け合うべき責任を持った兄弟姉妹であることを認識させ、③子どもがその生涯を通して善良・方正に過ごせるような良い習慣を獲得させるようなクリスチャン・ホームでなければならない⁶³⁾。

そのために、ハウは保姆伝習所を卒業する生徒たちに、次の4つの信仰を求めた。生涯を通して子どもの魂に影響を及ぼし続ける保姆が目指すべき信仰とは、①自己の職務に対する信仰、②子どもの威厳に対する信仰、③見えざる世界に対する信仰、④現代の諸問題の中にあつて自己の立脚地を確定するのに要する信仰、の4つであった⁶⁴⁾。順に見ておこう。

職務に対する信仰とは、公明正大で天真爛漫な幼子を相手にする職務を選んだ以上、その働きに対する信仰を見失わないこと。その1つは、自己の持てるすべての霊的・心的・物理的賜物を活用する機会を逃さないこと。その2は、自己の働きを助けるために、あらゆる方面に手を伸ばし、知識を追い求めること、である⁶⁵⁾。保姆として、知識に精通し、技芸を切磋琢磨することは、新約聖書ピリピ書3章13節の「唯この一事をつとむ」というみことばに従って生きることであった。

次に、子どもの威厳に対する信仰とは、幼子の威厳と神聖とを意識し、保姆の知的準備を改善するため、間断なく努力することである。学ぶものは、日本ばかりでなく、欧米において、計画・実行されつつあることにも注意を払い、絶えず研鑽に励むこと。書籍・雑誌に目を通し、自分の働きに資する知識を獲得することである⁶⁶⁾。

ハウは知識・技能に加え、次のような人柄を重視した⁶⁷⁾。

- a. 全身・全霊を幼稚園の仕事に捧げる者。
 - b. 園児を善良な公民に育て上げるために幼稚園に勤めているという信念を持っている者。
 - c. 保姆であるのみならず、実の母としての愛情と信任を得なければならないという信念を持った者。
 - d. 勇気をもって事に当たれる者。
 - e. 生涯にまで残る教育を行っているという責任とその重大さを自覚している者。
- dの勇気をもって事に当たれる者以外は、説明は要し

ないだろう。この勇気を持ってというハウの期待は、見えざる世界に対する信仰と考え合わせる時、明確に理解できる。ハウは「人生に於ける義務・努力・偉大にして勇敢なる活動の實行は、見へざる生命から、この人生に原動力が授けられてあるからであると信じ、すべてこれらのことを信じて、私共は、この学校に於て、私共にとつて、最も大切なる研究、即ち目に見へざる世界の黙示なる聖書を研究する」⁶⁸⁾のだと述べている。

ハウは、見えざる世界を黙示する聖書をもって勇敢に行動することは、旧約聖書イザヤ書40章31節「然はあれど、エホバを俟望むものは、新なる力をえん。また鷲の如く、翼をはりてのぼらん。走れどもつかれず、歩めども倦ざるべし」と考えていた⁶⁹⁾。

最後に、現代の諸問題に対する信仰とは、「進歩と云ふ聲も、近頃は、よほどやかましくなつて、耳につく様になりました。世の中には『進歩的』であると云ふことは、自己の職分を實行して居ると云ふことよりも、よほど、このましき事の様に思つて居る人が、随分多くあります。」と警告を發している⁷⁰⁾。特に、「米国から新しき幼稚園教師の来る度毎に、自分の方法を變更すること⁷¹⁾」に急がされる動きが横行している。ハウは、保姆たちが新約聖書マタイ書11章7節の「風に動かさる葦」のようにならぬよう諭しながら、フレーベルの原理と實際を了解し、この訓練を完成した上で、自らの働きに着手するよう求めたのである。

おわりに

ハウの働きは保育文献の少なかった明治期のわが国保育界にフレーベルの思想をはじめ、多くの欧米の保育文献を紹介した業績に尽きるものではない。ハウの業績は自然の中に神の愛と力を感得できる敬虔なキリスト者に子どもたちを育て上げたのみならず、和久山に代表される優れた保姆養成を達成し、わが国に幼稚園教育の重要性を認識させた点にある。

ハウが中核としたキリスト教主義とフレーベルの教育思想は、体系的な理科教育を確立し、子どもの中の神性を感じ取り、その漠然とした感情や敬虔な予感をしっかりした神への自覚にまで高めさせる保姆養成を実現させた。それは、自然を探索し、素晴らしい発見に胸躍らせ、美しいもの、未知なるもの、神秘なるものに目を見張る感性が求められる現代の保育者にも通じる力である。

とはいえ、最も注目すべき点は、和久山が神戸保姆会を脱会してまで貫こうとした神への献身である。それは、ハウが頌栄幼稚園のプリンシプルとして目指した「生命の充溢」に根ざした勇気ある英断であった。

注

- 1) キリスト教保育連盟百年史編纂委員会『日本キリスト教保育百年史』キリスト教保育連盟、1986年、39-47頁。
- 2) 同上書、61頁。
- 3) ハウ女史稿・さち子訳「幼稚園に對する思想の進歩」『基督教新聞』第384号、明治23年12月5日、5頁。
- 4) Vadewalker, N. C., *The Kindergarten in American Education*, Macmillan Company, 1908, p.97.
- 5) 倉橋惣三・新庄よりこ『日本幼稚園史』東洋図書、昭和5年、432-433頁。
- 6) 東 基吉「現今の幼稚園教育につきて」『婦人と子ども』第2巻9号、明治35年、52頁。
- 7) ハウ女史、前掲、5頁。
- 8) 高道 基編『幼児教育の系譜と頌栄』頌栄保育学院、1996年、3頁。
- 9) 同上書、88-89頁。
- 10) 同上書、7頁。
- 11) 同上書、24-27頁。
- 12) 同上書、33-34頁。
- 13) 山中茂子訳『A.L. ハウ書簡集：日本の幼児教育に生涯を捧げたアニー・L. ハウがアメリカの両親に宛てた手紙 1887～1929年』頌栄短期大学、1993年、15-25頁。
- 14) 杉浦 信「御来朝当時のハウ先生」『頌栄とハウ先生：頌栄六十周年記念誌』頌栄保育学院、昭和24年、15-16頁。杉浦は頌栄保育専攻学校第1回卒業生である。
- 15) 高道 基、前掲書、47-48頁。
- 16) 大戸美也子「J.K.U. 年次報告書の背景と今日的意義」『Annual Report of the Japan Kindergarten Union』第7巻、1985年、日本らいぶらり、377頁。
- 17) 日本保育学会『日本幼児保育史』第二巻、フレーベル館、昭和43年、10頁。
- 18) 「京都市保育会沿革概要」『京阪神保育会雑誌』第1号、明治31年、55-56頁。
- 19) 「大阪市保育会」『京阪神保育会雑誌』第1号、明治31年、56-57頁。
- 20) 「三市聯合保育会創立」『京阪神保育会雑誌』第1号、明治31年、27-28頁。
- 21) 山中 訳、前掲書、190-191頁。
- 22) 「第一回三市聯合保育会」『京阪神保育会雑誌』第1号、明治31年、29頁。
- 23) 同上、28頁。
- 24) 和久山きそ「幼稚園に於ける秩序之必要」『京阪神保育会雑誌』第2号、明治32年、30頁。
- 25) 「第三回三市聯合保育会」『京阪神保育会雑誌』第2号、明治32年、32頁。
- 26) 山中 訳、前掲書、203-206頁。

- 27) 同上書, 207頁。
- 28) 第9回聯合保育会は京都市保育会が主催した。開会の辞を述べた幹事関口秀範は、「今回ノ會合ニ於テ多少ノ遺憾ヲ感シマスノハ、吾々ハ豫テ三市ノ聯合ヲ擴張シテ関西聯合ノ保育會ト致シタキ冀望ヲ持チテ居リマシタガ、結果ハ全ク此希望ニ反對シテ神戸市ノ脱會ヲ見ルニ至リマシタ一事デス・・・聯合區域ノ縮小ニヨリテ幸ニ精神的結合ノ鞏固ヲ加ヘ依リテ以テ保育上ノ改良刷新ヲ促カスコトヲ得ルナラハ得ル所失ウ所ヲ償フテ猶餘リアルコトト信スマス」と語った(『京阪聯合保育会雑誌』第8号, 明治35年, 36-37頁)。
- 29) キリスト教保育連盟, 前掲書, 118頁。“Constitution of the Kindergarten Union of Japan,” *Annual Report of the Japan Kindergarten Union*, 1907, p.26.
- 30) Howe, A. L., “President's Address,” *Annual Report of the Japan Kindergarten Union*, 2, 1908, pp.42-43.
- 31) *ibid.*, p.50.
- 32) *ibid.*, pp.43-45.
- 33) *ibid.*, p.45.
- 34) *ibid.*, pp.45-46.
- 35) *ibid.*, p.46.
- 36) *ibid.*, pp.47-48.
- 37) 和久山喜素「開会の辞に代へて」『頌栄:頌栄創立四〇年記念』頌栄幼稚園, 昭和4年, 49-53頁。山中訳, 前掲書, 62-64頁。
- 38) 日本保育学会, 前掲書, 79-81頁。高野勝夫『エー・エル・ハウ女史と頌栄の歩み』頌栄短期大学, 昭和48年, 31-36頁。
- 39) ① Froebel, F. ed., Dwight, F. E. and Jarvis, J. trans., *Mother-Play and Nursery Songs*, Lee & Shepard Co., 1878. ② Lord, F. & Lord, E., *Mother's Songs, Games and Stories*, William Rice, 1890. ③ Blow, S. E., *The Mottoes and Commentaries of Friedrich Froebel's Mother Play*, D. Appleton and Co., 1895. Blow, S. E., *The Songs and Music of Friedrich Froebel's Mother Play*, D. Appleton and C., 1897.
- 40) フレーベル著, アンニー・エル・ハウ訳『母の遊戯及育児歌』第三版, 頌栄幼稚園, 大正5年, 2頁。
- 41) 水野浩志『『母の遊戯及育児歌』解説』岡田正章監修『明治保育文献集』別巻, 日本らいぶらり, 昭和52年, 167頁。
- 42) Blow, S. E., *The Songs and Music of Friedrich Froebel's Mother Play*, *op.cit.*, p.vii.
- 43) *ibid.*, p.v-vi.
- 44) *ibid.*, p.vi.
- 45) フレーベル著, アンニー・エル・ハウ訳『母の遊戯及育児歌』上巻, 頌栄幼稚園, 明治30年, 32頁。
- 46) Blow, S. E., *The Songs and Music of Friedrich Froebel's Mother Play*, *op.cit.*, p.34.
- 47) 『母の遊戯及育児歌』下巻, 68頁
- 48) Blow, S. E., *The Mottoes and Commentaries of Friedrich Froebel's Mother Play*, *op. cit.*, pp.126-127.
- 49) 『母の遊戯及育児歌』第三版, 14-15頁。
- 50) 荘司雅子『フレーベルの教育学』大八洲出版, 昭和23年, 242頁。
- 51) エイ・エル・ハウ著『幸福なる可能事』大正6年, 頌栄幼稚園, 11-12頁。
- 52) 同上書, 15頁。
- 53) 同上書, 15-16頁。
- 54) *Fourth Annual Report of Kindergarten Union of Japan*, 1910, pp.1-2.
- 55) 山中 訳, 前掲書, 94頁。Vadewalker, *op.cit.*, p.98.
- 56) 高野勝夫「頌栄幼稚園におけるエ・エル・ハウ女史の保育(Ⅰ)」『頌栄短期大学研究紀要』第6巻, 1974年, 26頁。
- 57) 『幸福なる可能事』前掲書, 16-17頁。
- 58) 同上書, 14頁。
- 59) 同上書, 18頁。
- 60) 和久山きそ「思ひ出」『創立五十年記念』頌栄保育専攻学校・私立頌栄幼稚園, 昭和14年, 17頁。
- 61) Howe, A.L., “A Newspaper Reporter at the Glory Kindergarten,” *Mission News*, 15(6), 1912, pp.106-107.
- 62) 太田稠夫「巢立てるものの歎び」『創立五十年記念』前掲書, 21頁。
- 63) 『幸福なる可能事』前掲書, 7-10頁。
- 64) エイ・エル・ハウ講述『信仰』頌栄幼稚園, 1916年, 2-3頁。
- 65) 同上書, 11-13頁。
- 66) 同上書, 19-20頁。
- 67) 同上書, 21-23頁。
- 68) 同上書, 25頁。
- 69) 同上書, 25-26頁。
- 70) 同上書, 48-49頁。
- 71) 同上書, 53頁。

Kindergarten Education Thought of A. L. Howe and Christian Education

Kimiyo HASHIKAWA

The purpose of this study is to clarify the fullness of life, the kindergarten principle of A. L. Howe by suggesting on the practice of the Glory Kindergarten and Training School in Kobe. The Glory Kindergarten and Training School had its beginning in 1886 when the women of the Kobe Church (Congregational) began to plan for a Christian Kindergarten.

In 1887 Miss Annie L. Howe, from Chicago, was sent to Japan by American Board of Commissioners for Foreign Missions of the Congregational Church to take charge. The building was built in 1889, and the Kindergarten and a Training School started.

One of the greatest services that Miss Howe rendered the cause of kindergarten advancement in Japan was the translation of Froebelian literature into Japanese. Through the translation of Miss Howe in 1897, Froebel's "Mother Play and Nursery Songs" was made accessible to Japanese readers. It is difficult for her to translate into Japanese which is unfamiliar with life and habit. But she thought that Froebel's principles are as true in Japan as they are in Germany and America. So, the Japanese artist conformed the mother-play pictures to native canons and put in many pretty and suggestive touches of the life of Japan, yet he preserved the spirit of the subject wonderfully well.

Howe regarded the morning talk and a life with a nature important in the Glory Kindergarten. In the Glory Kindergarten, Howe made the flower garden which children cared for it from the beginning. The children decorated the school with flowers and went out to visit and gave flowers to sick fellow-pupils. The kindergartners were going into scientific preparation, and trying most earnestly to present the various natural sciences truthfully to the children. The seasons, with their phenomena form the basis for this most excellent work, and the children are helped to love much that is beautiful and wonderful, before they come to the years when they may understandingly study it.

Howe doubtless realized Froebel's saying that every man was a child of nature, a child of man and a child of God. As a child of nature man is the product of his human brute ancestry and his physical environment. As a child of man he is product of his human ancestry and his social environment. As a child of God he is a free, self-making energy, capable of forming and obeying ideals and therefore the victim of no past however extended.

By tracing the above-mentioned Howe's achievements, we would have a better understanding of a child of God by Froebel and the fullness of life which is the greatest principle in current kindergarten.